

飯能市立博物館収蔵資料目録 10 (収蔵文書目録その 4)

武蔵国高麗郡真能寺村 双木利夫家文書目録



令和6年3月31日発行 A4版 158ページ 白黒
頒布価格：1,600円（税込み）

【本書の内容】

◇解題

双木家文書からわかる真能寺村の概要や、双木家の歴史および文書群の内容などについて解説しています。図や表を入れて、**江戸時代の真能寺村についてのガイドブック**にもなっています。

◆ 目錄

双木家文書をその内容に基づき 17 の大分類に分けて配列しました。

◇寄留

明治初期から明治 20 年頃までの寄留届を年代順に一覧にしました。

◆史料集

双木家文書のうち8点を、当館市民字芸員の協力を得て翻刻（現代の文字に直すこと）し掲載しました。

○双木利夫家について

双木家は、近世には武蔵国高麗郡真能寺村（現在の飯能市八幡町・原町など）に所在し、江戸時代後半より同村の名主を務めた家です。その後2代にわたり飯能町長も輩出しました。

○史料の来歴・概要

双木家に伝来する古文書は2,684点からなり、大きく分けると、①近世真能寺村の名主家文書、②明治5年以降の真能寺村戸長役場文書、③明治12年3月に成立した飯能・久下分・真能寺3ヶ村戸長役場組合文書、④明治15年6月に3ヶ村が合併してできた飯能町の役場文書、⑤明治17年9月に周辺の中山・大河原・永田・久須美・小瀬戸・小岩井の6ヶ村とともに設置した連合戸長役場文書から構成されています。注目されるのは、江戸時代以来、市立てが行われた町の中心部分にあたる旧飯能村・久下分村分の商家の関連史料であること、また明治初期から同20年頃までの寄留届などがまとまって残っており、この時期の飯能の町における人の動きや繁栄ぶりをうかがうことができます。

双木利夫家文書目録は当館 Web サイトで公開しています。こちらの方は作成年順のデータ (excel と PDF) になっておりますので、収蔵資料目録に掲載されている分類別のデータと併せてご活用ください。



四六 宮本畫日録 ばくじゆく